

JA松任青年部

YOUTH SITE



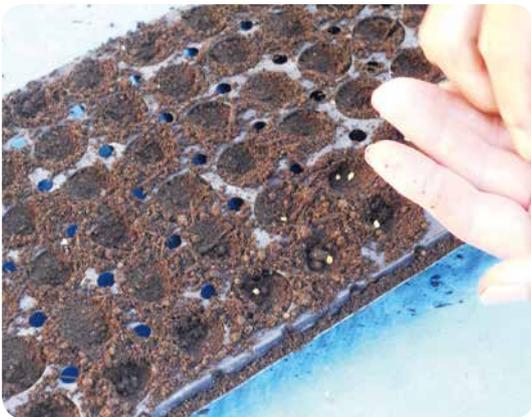
【ナンバの種まき作業】

4月10日（土）、毎年行っております、ナンバの種まき作業を行いました。

（林中地区青年部）

当日は朝7時半に盟友と盟友の子供が集まり育苗トレーに種を入れて、その上に土をかぶせるといふ作業を行いました。

種から芽が出てきたら、これを5月上旬にポットに移したり、露地に植えかえたりする予定です。これは、林中地区青年部のナンバみそ作りの土台になる行事なのでいいナンバの苗ができればいいなと思います。



【松南ベジスポフェスティバル用の畝たてと菜種畑の追肥】

（松南支部山島地区）

4月25日（日）に松南ベジスポフェスティバル用の畝たてと菜種畑の追肥を行いました。

松南ベジスポフェスティバルとは今年度JA松任松南支部の山島地区と林中青年部との合同企画として実施するイベントです。地元松南小学校の1～4年生を対象に、松南の農とスポーツ体験を同時に体験するという形で企画しており、農体験に必要な畝たてを行いました。



新型コロナウイルス感染症予防のため参加盟友の数を少なくし、マスク着用の中での実施でしたが、松南ベジスポの成功を祈りながら、また参加する松南っ子の安全を考えながら、作業を行いました。天候にも恵まれて順調に進めることができました。

畝たて作業後は、山島夏祭りの松明に使用する菜種畑の追肥を行いました。



昨年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症により中止となりましたので、2年ぶりの開催を祈りながら菜種畑の追肥を行いました。

今年は2月にたくさん雪が降り生育が心配されましたが、春先の晴天や暖かい日が続いたことで、菜種は順調に成長してくれています。

8月の夏祭りに向けて今後は菜種畑の刈り取り、乾燥、松明作成と作業が続きますが、感染対策をとりながら実施していきたいと思えます。

【ジャガイモの定植を行いました】

（中央支部青年部）

3月27日（土）、横江の畑にて、郷公民館と合同でじゃがいもを定植しました。桜も咲き始め、穏やかな天候の下、盟友の家族や近隣の子供たちと一緒に作業を行いました。

青年部OBの方の圃場をお借りし、トラクターで畑の準備をしていたところ、半分に切った【男爵いも】の種イモを丁寧に植えていきました。子供たちからは「楽しかった！もっと植えた〜い」「早く食べた〜い」と歓声が沸いていました。

収穫を予定している夏頃には、コロナが収束し、またみんなで楽しく作業できることを期待しています。



野菜もの知り百科

トウモロコシ（イネ科トウモロコシ属）

土壌医●藤巻 久志



世界三大穀物は小麦、米、トウモロコシで、どれも単子葉のイネ科です。世界的に見ればトウモロコシは野菜（園芸作物）ではなく食用作物です。日本で食べられるスイートコーンは未熟のトウモロコシで、野菜に分類されます。同様に未熟の大豆を食すエダマメは野菜に、完熟で収穫する大豆は食用作物に分類されます。

トウモロコシには甘味種（スイートコーン）、硬粒種（フリントコーン）、爆裂種（ポップコーン）、馬齒種（デントコーン）などがあります。甘味種は未熟で利用しますが、他の種のほとんどは完熟で収穫します。爆裂種は粒の大部分が硬質で、炒めるとわずかな軟質部が膨張して粒全体がはげます。甘味種は種皮が柔らかいため、炒めてもポップコーンにはなりません。

1970年代初頭に糖分含量が抜群の「ハニーバンタム」が発表され、大人気になりました。それまでのスイートコーンは「湯を沸かしてからもぎに行け」と言われるほど糖度の低下が早く、消費が限られた野菜でした。「ハニーバンタム」は糖度の低下が緩やかで日持ちするので、全国のスーパーに並び、トウモロコシは家畜の餌とされていた西日本でも食べられるようになりました。

「ハニーバンタム」は粒皮が口に残るのが難点でした。そこでイエロー種と皮の柔らかいホワイト種を掛け合わせたバイカラーの「ピーターコーン」が1980年代中ごろに開発されました。粒色は黄色が優性、白色が劣性なので、メンデルの法則通り黄色の粒と白色の粒の比率は3対1です。

現在はさらに育種が進み、イエロー種でも皮の柔らかい「味来」や「ゴールドラッシュ」などが主力品種です。ホワイト種も栽培されるようになりましたが、イエロー種の花粉が掛かると雌穂の所々に黄色い粒が入ってしまいます。トウモロコシは風媒花で、花粉は300m以上も飛びます。

藤巻 久志（ふじまき ひさし）

種苗管理士、土壌医。種苗会社に勤務したキャリアを生かし、土作りに関して幅広くアドバイスをを行う。